

令和 6 年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立佐伯中学校	校長	松田 智広	生徒指導主事	秋田 智恵
取組事例名	『行事での縦割り集団活動と振り返りの充実』				

1 取組の設定	
取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
・活動を通して、生徒に「自己肯定感」「自己有用感」をもたせ、『明日も学校に行きたい』と思わせる。	・最善の努力をし、自己の目標を達成しようとする生徒 ・いきいきと活動し、向上しようとする生徒 ・郷土を愛し母校を誇りに思う生徒



2 展開	
取組の具体的内容	取組の創意工夫
【行事の縦割り集団活動と振り返りの充実】 ○命の大切さを考える日 全校集会で「いじめ撲滅」について考えた「いじめゼロ宣言」を書きグループで交流する。掲示して全体交流とする。    ○体育祭・文化祭 縦割り集団で仲間意識を持たせて活動したのち、互いの頑張りを認め合い感謝を伝え合う。掲示して全体交流とする。     	生徒にめあてをもたせるために ・活動の当日だけでなく、委員会やお昼の放送などで、生徒（生徒会長・体育委員長・文化委員長、等）の言葉で活動の趣旨を伝えさせた。 生徒の意欲を高めるために ・その場で、個に応じた承認、激励等、評価を行う場や機会を設けた。 ・生徒が互いに認め合い評価する場や機会を設けた。 生徒の頑張りを認め、価値付けるために ・生徒や保護者からのメッセージカードを掲示し、他者評価により生徒の頑張りを認める。 ・目立たなくても責任をもってやり遂げた姿を評価する。 ・目標までいかになくても、生徒なりに全力で取り組んできたプロセスを認める。



3 成果と課題
生徒アンケートで、「自己肯定感」を問う『自分には良いところがある』の肯定的評価をした生徒 84.3%であった。「自己有用感」を問う『自分のやったことで人から喜んでもらったことがある』の肯定的評価をした生徒 90.0%であった。その場で肯定的評価や相互評価をしたり、振り返りをしたりすることで、生徒の自己評価が高かった。今後も、行事等において、役割をもたせて、目標に向けて全力で取り組ませる。